

富士宮市立上野小学校 古代体験授業レポート

静岡県埋蔵文化財センター

令和3年6月29日（火）

狩猟や採集をしていた頃の暮らしを体験しました。

狩猟や採集をしていた頃の暮らしを体験することを通して、地域の自然の中で大昔の人々が高い技術を持って豊かに暮らしていたころの理解を深めることを目的に、出前授業を計画されました。今回は、2学級を一緒に発掘調査の話聞き、その後学級毎に石器の試し切り体験・土器の分類体験と火起こし体験をローテーションすることにし、火起こし体験の時間を長くすることができました。



◎発掘調査の話

学校周辺の遺跡（千居遺跡・大鹿窪遺跡）についての話や発掘調査にまつわる話など、画像を見ながら大変興味深く聞くことができ、地域に歴史があることを感じ、そこに残されたものから、新しい歴史がわかること、想像することの大切さを学ぶことができたようです。メモをとりながら意欲的に話が聞けていて、学ぶ姿勢が強いことに興味しました。



◎火起こし体験

火起こしの時間を35分間とったことで、時間的に余裕があり、大方の班が火を起すことができました。リズムよく弾み車を回すことで火種ができ、火種を火口にやさしくのせ、フーフータイムを頑張っていると火が起きました。火が起きたときには、うれしそうな顔をしていました。



◎土器の分類体験と石器の試し切り体験

縄文・弥生・古墳時代の土器の違いについての話を聞いた後、微妙な土器の違いを話し合いながら分類することができました。

また、打製石器や磨製石器、黒曜石について話を聞いた後、黒曜石で試し切りしました。昔は大変ただけでなく、暮らしをよりよくするために道具を工夫し発展させてきた人の営みを考えることができたようです。

